
トライアングル ～僕と私と俺の恋愛事情～

chi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トライアングル ～僕と私と俺の恋愛事情～

【Nコード】

N1525F

【作者名】

chi

【あらすじ】

僕の恋はむくわれない・私の恋はむくわれない・俺の恋はかなわない・・・そんな僕らの恋愛事情

プロローグ（前書き）

一部男性同士の恋愛を含みますので、苦手な方はお戻りください。

プロローグ

僕の恋はむくわれない

私の恋はむくわれない

俺の恋はかなわない

ああ神様、どうしたらあの人は振り向いてくれますか？

田島誓のターン1

現在昼休み終わりの5限目午後二時。
最強最悪に眠い……。

お腹一杯だし、風気持ちいいし、日の光絶妙だし、先生の声が子守唄に聞こえてきた……
まずい。このままじゃマジで寝る。

悪あがきでノート取るけど全然ダメ。暗号みたいな文字になってるし。
というかこの暗号、書いた本人も解読出来ないんですけど……

僕の席は窓側の後ろから二番目。最高の席だと思わない？
だって教室全体見渡せるし、窓側だし、後ろだし、眠いし……
・
ああ最後は席に関係なかった……それにしても眠い。

他の奴ら、よくこんな凶悪な気候で真面目に授業受けれるものだと
感心しながら辺りを見回す。

廊下側同じく後ろから二番目、まえだひかり前田光
あいつすげえ真面目にノート取ってんな。って、なんだ漫画描いて
るのかよ。

その斜め後ろ、田中あいり
お前授業中に化粧すんなよ。たいして変わらないし……
っーか目の周り真っ黒じゃん。お前はパンダか！

教室ど真ん中に見える金髪、佐々木剛さわきこう

さすが・あんなに堂々と机に顔埋めて・・・先生も諦めてるし。
というかあの髪色、すげえ痛んでそう・・・絶対将来はげる。

その隣、大塚聡史おおつかさとし

めずらしい。あいつが真面目に教科書出してる・・・っておい。お前
さつき昼飯喰ったばつかじゃん。

そんなんだからデブるんだよ！しかも隠れてないから！！バカだ・
・

教室で最悪のアリーナ席、吉田めい

僕があ席になつたら、絶対次の席替えまで学校休むね。

しかし今日も可愛いなあ。隣の席になれるならあそこでもいいけど・
・なんてね。

僕の前の席、中村仁なかむらしん

お前なにニヤニヤしてんの？校庭？

窓から見える校庭では、一年女子が体育の授業を受けている。

仁、お前危ない奴だな・・・一年女子の皆さーん、危ない奴が見て
ますよー。気をつけてくださーい。

って僕も見ているんだけどね。

サッカーか。いいねえ、一つのボールに女の子が群がるかんじ。も
しかしてコレは夢かしら？って思うほどパラダイスな光景だね。あ
っ転んだ。

仁のこと言えないな。きつと僕も今ニヤニヤしてる。

「・・・ま、・・・島、田島！！」

「えっ！？あつハイ！」

うわー我ながら間抜けな返事・・・

「お前授業中だっというのに、外見てニヤニヤしゃがって！この問題答える！！」

先生、僕だけじゃないでしょ！仁だって・・・

ってお前、いつの間に真面目に授業受けてんだよ！！裏切り者――

「えーと・・・あー」

「2 3」

「えっ？あつ・・・2 3！」

「正解。ちゃんと前向いとけ！！」

「あつハイ。すみません。」
助かった・・・

「ありがとうな、アキ。マジで助かった。」

僕の後ろの席、ありしましゅつ有島秋

僕の幼馴染で親友。

学年の1/3の女子はこいつのこと好きなんじゃないかな。男の僕から見てもカッコイイ奴。

「ケイ、お前キョロキョロしすぎ。挙動不審で通報されるぞ。」

「そんなーほんの出来心だったんですう 刑事さん……って気付いてたんならもっと早く教えるよ!」

「お前ね、それが助けてもらつた奴の言葉か！もう助けてやらねえ。」

「あーウソウソ。ごめんなさい！すっごく感謝してますアキ様！！」

「そんないいんだよ、ケイ君。明日のお昼に焼きそばパンさえ食べれば。」

「焼きそばパンって！　ただだけ競争率高いと思ってんだよ！！」

あっ！　しまった．．．　思わず大声を．．．

「たじま――！！！！！！」

「ハイ・・・・。」

だってね先生、有島くんが……

「授業受ける気ないなら出る！」

「ハイ、すみません・・・。」

うーっー 恥ずかしい・・・吉田さんまで笑ってる・・・

くっそー笑うんじゃない！お前らだってさっきまで好き勝手なこと
していたくせに！！

なんで僕だけ……神様不公平です。

「お前のせいだからな、アキ。」

「でも眠気飛んだら？」

ああ飛びましたとも、僕のプライドと共にね！粉々に飛び散りましたとも！！

「じゃあ明日、焼きそばパン二つよろしく。」

おい。一個増えたぞ！このちゃっかり者！！

くっそーわかったよ、買えばいいんだろ買えば！！

吉田めいのターン1

現在昼休み終わりの5限目午後二時。
最強最悪に退屈。

数学は嫌いじゃないけど、この先生は嫌い。
だってキモいんだもん。
さつきから私の反応ばかりみてる……最悪。

でも一番最悪なのはこの席。
この教室で最悪のアリーナ席、教卓の目の前。
本当は次の席替えがあるまで休みたいくらい……でも私、優等生だし。

あつ、また私の反応うかがってる……

私にはっこり微笑んでうなづく。

これで満足か？

あーめんどつくさい……

右隣の席に目をやる。太田早苗おおたさなえ

成績：中の下、ルックス：中の下、つまりクラスの底辺。
ていうか、成績悪いんだから授業ぐらい真面目に受けるよ！
寝るな！このバカ！！あつ起きた……

そんなに赤面しなくても……誰もお前を見ていないって！
……あー見てるか、私が。
まあどうでもいいけど……

左隣、金子建^{かねこけん}

成績：中の中、ルックス：中の下、つまり普通。
あつ！しまった・・・目が合った。
とりあえず、微笑んでおこう。

なに急に意識しだしてんだよ！バカかお前！！

「・・・ちゃん、めいちゃん」

「ん？どうしたの？早苗ちゃん。」
授業中に話かけるなよ

「ご、ごめんね。あのね、ちょっと寝ちゃってたみたいで・・・」
ちよつとじゃないけどね・・・

「でね、ノートをね、見せて欲しいんだ・・・」
いやだよ。なんで私がお前のフォローをしなくちゃいけないの？

「うん、いいよ。」
でも私いい子で通っているし・・・

「本当にごめんね・・・ありがとう」
礼を言うなら金をくれ！！

「たじま！田島！！田島！！！！」
なに？どうしたの？

「えっ！？あつハイ！」
なにその間抜けな返事・・・

「お前授業中だっというのに、外見てニヤニヤしゃがって！この問題答えろ！！」

ニヤニヤって・・・妄想でもしてたわけ？バカじゃない？

立たされている奴、たじますい田島 慧

成績：中の下、ルックス：上の中、つまり顔だけの天然バカ。
なんで女子はあれを「可愛いw」って騒ぐんだろっ・・・

「えーと・・・あー」

こんな簡単な問題も解けないのに・・・
騒いでる女子もバカだからか？

「2 3」

あっ・・・有島秋の声

「えっ？あっ・・・2 3！」

良かったね、命拾いして。

「正解。ちゃんと前向いとけ！！」

だから、私の反応いちいち見なくていいから！

田島 慧の後ろ、ありしましゅつ有島 秋

成績：上の中、ルックス：特上、つまり完璧。
でも私は苦手。

だって無愛想だし。

私が微笑めばたいいていの人は言う事聞くのに、あいつ無関心だし。
でもま、あいつに女子が騒ぐのはわかるかな・・・

まあどうでもいいけど・・・関わることもないだろうし。

「焼きそばパンって！　ただだけ競争率高いと思ってるだよ！！」
 今度はなに？　いきなりなに叫んでるの？　しかも焼きそばパンって！

「たじま——！！！！！！」

「ハイ・・・。」

あらら、シュンとしちゃったよ。

「授業受ける気ないなら出る！」

「ハイ、すみません・・・。」

あはは、どこまで天然バカだよ！田島慧。

それにしても……あーー退屈。

吉田めいのターン1（後書き）

感想・アドバイス頂けたら参考にします^^

有島秋のターン1

現在昼休み終わりの5限目午後二時。
最強最悪に暇……。

授業？そんなもの聴かなくなつたつて俺わかるし……
授業なんて理解できてない奴が聴くもんだろう？
ま、聴かないから理解できないんだろうけどさ。

お前のことだよ……ケイ……

前の席、たじますい田島慧

家が近所でガキの頃からの幼馴染。つて、今もガキだけど……
頭グラグラさせて、今にも寝そうだな。

おっと！危ねーなあ……机で顔打つぞ……

おっ！？頑張つて起きようとしています田島選手。
頑張っております！頑張っているけど………ダメだあ！！

あーあ、絶対鼻打つたな（笑）

まあここの席は眠くなるよなあ……

窓側の後ろなんて「寝ていいよ」っていつてるような席だもんな。

それに引き換え最悪のアリーナ席、吉田めい

まあ、あの席があいつなら先生達も嬉しいんだろうけど。

おーおう、伊沢のやつ吉田だけに授業してるつもりか？

吉田もよく律儀に反応するよなあ・・・

でも、笑顔が若干引きつってますよ？お嬢さん（笑）

おっ？ケイのやつ、いつの間に起きたんだ？

って、お前なにキョロキョロしてんの？

挙動不審すぎるから（笑）

なに見て・・・田中？

廊下側後ろ、田中あいり

お前、授業中に化粧って・・・

げっ、まずい！見てるの気付かれた・・・

っておい！なぜそこで赤くなる！！

っ！かお前目の周り真っ黒じゃん！

とりあえずアイライン引く手を止める！！

「あ、あの有島君・・・」

「あ？」

隣の席、水野鈴みずのすず

こいつ何かと話しかけてくるんだよなあ・・・

男共は「可愛い」とか言うけど、ただのぶりっ子だろ。

「なに？」

「ごめんね。消しゴムなくしちゃったみたいで貸して欲しいの。」

って足元に落ちてんじゃん。

「そこに落ちてるの違っの？」

「えっ？あ、本当だ！ごめんね、私っておつちよこちよいだから・・・。」

誰もそんなこと聞いてないけど・・・っーか自分で言うな！

「ほら、これだろ？」

「たたく、なんで俺が拾わなくちゃいけないんだよ。」

「ありがとう！有島君って優しいね。」

えっ？普通じゃねえ？この状況で拾わない奴の方が少ないだろ・・・

「ってケイ、お前なにニヤけて・・・」

「あー１年女子がサッカーやってるわけね。」

「でもねケイ君、お楽しみ中のところ悪いんだけど、伊沢先生がすぐく睨んでいらっしやいますよ？」

「たじま、田島、田島！！」

「ま、そうなるわな。」

「えっ！？あつハイ！」

「あーあ、間抜けな返事しちゃって・・・」

「お前授業中だつていうのに、外見でニヤニヤしゃがって！この問題答えろ！！」

「えーと・・・あー」

「仕方ない・・・助けてあげましょう。」

「 2 3 」

「授業受ける気ないなら出る!!」

「ハイ、すみません・・・。」

あーあシユンとして（笑）

「お前のせいだからな、アキ。」

おいおい、人のせいだよ！

「でも眠気飛んだらろ？」

「そりゃ、目は覚めたけど・・・。」

変わってないなあ、言い返せなくなると口を尖らせるクセ（笑）

「じゃあ明日、焼きそばパン二つよろしく。」

「って、一個増えてんじゃねーか!!」

はは、さすがに気付いたか（笑）

やっぱり、暇な時はケイをからかうに限るな。

とりあえず、明日の昼休みまでの暇つぶしにはなりそうだ。

有島秋のターン1（後書き）

感想・アドバイスを頂けたら参考にします。

田島誓のターン2

やっと終わった・・・

いろんな意味で地獄の5限目。

今はホームルーム終わりの放課後。

部活に行く奴、委員会に行く奴、帰る奴・・・

みんなそれぞれの時間に向かって教室を出ていく。

僕はそんな光景を横目で眺めている。

あつ！今変態っぽいつて思っただろう？断じてそんな覗き趣味はない！！

「ねえ、さちこ！今日駅前のクレープ食べに行かない？」
ん？大木加奈の声？

「いいね！！あつ！その前に図書室寄って行つていい？」
こっちは江川幸子。

「あーいいなあ！私も一緒に行つてもいい？」
それに柴田まみ。

なんで女の子って、甘いものになるとあんなに嬉しそうなんだろう？

っーか

「女の子つてもれなく可愛いよなあ・・・」

「はっ？何か言ったか？ケイ。」

あれ？声に出ちゃってました？

「いやあ僕は思うのだよアキ君！女の子ってみーんな可愛くない？」

後ろの席、有島秋は現在クロスワードに熱中。

「そうかあ？可愛いやつも居れば、そうでない奴もいるだろう。あつ！なあ五文字でアから始まって、ルで終わる言」

「いや、違うね！」

僕は思わずアキの机を叩いた。

「なんだよ……遮るなよ。」

「お前は間違っている！女の子は皆可愛いの！！見ろ！駅前のクレ
ープ一つであれだけハシャげるんだぞ？可愛いじゃないか！」

「お前何気に馬鹿にしてねえ？」

「していない！つーかお前は、クロスワードよりもっと女の子に興味を持って！！」

「わかった！わかったから落ち着け！！ってあ————」

「あつ・・・」

しまった……ついつい力が入って破っちゃった……

「ごめんね。アキくん（ハート）」

「いいんだよケイクくん。今週の掃除当番代わってくれれば。」

「はあ？なんでだよ！！」

「なんで？」

「いや、やります・・・やらせてください。」

「そんなにやりたいなら仕方ないなあ。やらせてあげる」

「わあ嬉しい。あはははははは・・・はあ。」

なんて・・・最悪な一日・・・

田島誓のターン2（後書き）

感想・アドバイスを頂けたら参考にします^^

有島秋のターン2（前書き）

良かったらブログも覗いてみてください^^
http://blogs.yahoo.co.jp/chiana_ji61020

有島秋のターン2

くっソーケイの奴！

もう少しで全部埋まったのに・・・

「ア」で始まって「ル」で終わる5文字かあ
あの答えって結局なんだったんだ？

「あ、あの・・・」

うーん、わからん！！

「あの！有島君！！」

おいおい、有島って「ル」で終わってないし・・・字足らずだし・・・

「有島君！！」

ん？なに？俺を呼んでるのか？

振り向くと、そこに居たのはC組の向井レナだった

「あーわりい。考え事してた・・・何？」

「あ、あの、今ちよつといいかな？」

おいおいお前大丈夫か？耳から湯気が出そうなくらい真っ赤だぞ？

ていうかこのパターン・・・

「あのね、私ずっと有島君のことが好きだったっていうか・・・」
「やっぱり・・・」

「好きなの・・・」

「つか君のこと全然知らないんですけど・・・」

「あーえつと・・・デスね・・・」

「あつ！でもどうこうする気はなくて・・・」
「はっ？」

「有島くん私の気持ち、知ってて欲しかったっていうか・・・だから・・・」

「・・・」

「そつか・・・ごめんな」

「今の俺、至最最悪で最高の笑顔してる自信あり！」

「うっん！こっちこそ、時間取らせてごめんね。じゃあ！」
「ほらみる、俺の笑顔でさらに顔を赤くさせてたじゃねーか！」

「これが皮肉だって、きっと向井は一生気付かないだろうな・・・」

「女の子はもれなく可愛い！」

「ケイはあー言っただけ、俺はそんな風には思えない。」

あーゆー控えめなつもりでズーズーしいのが一番癪に障る・・・
「好きになってくれてありがとうな」

とかクソ生ぬるいこと言うとも思ってたのかよ！

どーこーする気ないんだつたら一生黙ってる！！

好きでもない奴に言い寄られるほどウザイことなんてないんだよ！

って、俺が一番よく分ってた・・・

だから・・・今は言えねえ・・・

「あの、有島君？」

なんだよ！人が感傷的になっている時に！！

「ご、ごめん。そんな恐い顔して、何か考え事してた？」
吉田めい？

「あついや、ごめん。何？」

「有島君、今週掃除当番だったよね？」

「あつ、それなんだけど、ケイに変わってもらったから。」

「そうなんだ、わかった。じゃあごめんね、呼び止めて」

「ああ、じゃあな」

そっだよ！掃除当番代わってもらったんだ・・・
からかう相手は掃除当番だし、クロスワードはそいつに破かれたし・
・

どうしようまた暇だ・・・

有島秋のターン2（後書き）

感想・アドバイスをいただけたら参考にします^^

吉田めいのターン2（前書き）

ようやく三人とも二周目が終わりました!! 3
でもまだ進展なしw

良かったらブログも覗いてみてください^^ <http://blog.gs.yahoo.co.jp/chianji61020>

吉田めいのターン2

「ばいばい、めいちゃん」

「うん、また明日ね」

あー疲れた……

一日中作り笑顔していると顔の筋肉がつるんだよねえ。

まあ仕方ないか……

「優等生のいい子」

これが、この学校での私のキャラだもんね。

はあ………

「お嬢さん、化けの皮が剥がれかけてますよ？」

「うわぁ！……！」

耳元で囁かれて、思わず叫んでしまった………

「ちえ！……！」

「あはは、ごめんごめん。」

振り返るとそこに居たのは犯人、宇野ちえ

私の本性を知る、数少ない友人。

「あんた授業終わったからって気抜きすぎ！そんなに疲れるならやめりゃあいいのに、猫かぶり。」

「あのね、やめたくてもやめられない所まで来ちゃってんのよ！」

「それって、眠いけど、続きが気になってこの漫画を最後まで読み終わるまでは寝れない！！みたいなこと？」

「違う！……いや、間違ってもないか？うーん……」

「おいおい、ボケたつもりのものをそんなに真剣に考えられたら、こつちが恥ずかしいんですけど！」

「で？なにか用があるんでしょ？ちえ」

「あつ！そうそう。ごめん、今日委員会です。掃除当番出られない」

「えーちえも？」

「ちえもって……」

「高田君もあいちゃんも用事で来れないって……」

「あらら、まあ仕方ないよね。」

「私ひとり……？」

「確かもう一人居たんじゃない？えーと……そうそう有島君だよ」

「！」

「その有島君は教室のどこにも居ないんですけど……」

「……探しておいで。」

「えーーーーーー？」

「委員会終わったら駅前のクレープおごるからさ。」

「チョコのトッピング付き？」

「はいはい。じゃあね。また後で！」
「行っちゃった……」

「はあ……仕方が無い……有島君探そう。」

「5分後」

「くっそー！どこに行きやがった！有島秋……！」

「逃げてたら殺す……！」

（１０分後）

や、やっと見つけた……

「ありし……」

ん？一緒にいるのはＣ組の向井さん？
げっ、やばい！告白現場だ！！！！

思わず隠れちゃった……

「そつか……ごめんな」
あっ……フラれた……

うーどうしよう……声かけずらいなあ……
えーい！！

「あの、有島君？」

なんでフツたあんたがそんな顔してんのよ！？

「ご、ごめん。そんな恐い顔して、何か考え事してた？」
なぜ謝る私……私は悪くないぞ！！

「あついや、ごめん。何？」

「有島君、今週掃除当番だったよね？」

「あつ、それなんだけど、ケイに変わってもらったから。
えー？それならそうと早く言つてよ！
探し回ったの無駄じゃん！！」

「そうなんだ、わかった。じゃあごめんね、呼び止めて
ああ、もう！早く掃除しよう！！」

「ああ、じゃあな」

これだからモテる奴は！

ていうか向井さん、フラレタのにどうしてあんなにすっきりした顔
だったんだろう？

人を好きになるって私にはわかんない・・・

つてもう！早く掃除終わらせてクレープ食べにいこう！

吉田めいのターン2（後書き）

感想・アドバイスを頂けたら参考にします^^

田島誓のターン3（前書き）

少しでも進展したかな？

でもまだまだ先は長い・・・

良かったらブログも覗いてみてください
^^
<http://blog.gs.yahoo.co.jp/chianji61020>

田島誓のターン3

あーもう！

なんて最悪な日なんだ！！

つか・・・

「なんで誰も居ないんだよ！！！！！！！！」
くっそー思わず叫んでしまったじゃないか！

って

「あー！！！！！！！！！！」

せっかく集めたゴミが・・・吹っ飛んだ・・・
あーもう！！

とはいえ、頑張ってるよ！僕！！
だって見てごらん。あと半分だ！！

・・・・・・

というか、あと半分もあんのかよ・・・

「はあ・・・」

やろっ・・・

「ごめんなさい！田島君！！」
ん？吉田さん？

「えっ？何が？」

あまりにも吉田さんが勢いよく飛び込んできたから、間抜けな返事をしてしまった・・・

「私も掃除当番なの。なのに一人でさせちゃって・・・」

「あー・・・いいよ別に。他のやつらも来てないみたいだし、気にしないで。てか、大丈夫？少し休ん」

「すぐ手伝う！」

「あー・・・うん、ありがとう。」

見事に遮られた・・・

『女の子は皆可愛い』僕は本当にそう思うんだ。
だけど、吉田めいはその中でも特別可愛いと思う。

別にルックスが飛びぬけていいわけじゃない。

ルックスだけで美人っていうなら、吉田さんと仲のいい「宇野ちえ」
だと思っし、可愛いのは「水野鈴」みずのすずだと思っ。

うーんなんていうのかなあ・・・吉田さんは行動が可愛い。

皆は「ちょっといい子すぎる！」「っていうけど、あれは一生懸命なんだよ。

それに！その割りには皆、吉田さんに微笑まれると意識してるじゃないか！

今だってほら……

「田島君、これ捨ててもいい？」

走ってきたんだろうね。息きらして……

「うん、いいよ。ありがとう。」

少し休めばいいのに……可愛いなあ。

僕はね、女の子は皆「花」みたいだと思うんだ。

だから女の子には優しくしたい。

でもね、好きな子には特別優しくしたいだろう？だって男だもん。

世界中の花を花束にして、特別なその人にあげたい……ってくさい？

吉田さんにだったら、あげてもいいかもしれない……

「……くん？田島君？」

「ん？あーごめん！ぼーっとしてた」

まずいますい、考え込んだじゃった……

「あはは、一人で掃除してたから疲れちゃった？いいよ、休んでても。」

うーん……なんて気遣いのできる子なんですよ……

「ねえ吉田さんて、長女？」

「えっ？突然だねえ（笑）そうだよ！下に弟と妹がいるの。」

「あっやっぱり！お姉ちゃんって感じがしたからさ。」

「そう？（笑）田島くんは？兄弟はいるの？」

「うん、姉がいる」

「へえ、仲いいの？」

「えっ？……うん……仲……いいよ……」

「えー？本当？なんか反応わるいよ（笑）」

「あっ、いやあ……仲いいってどういふことかなあ？って一瞬考え
てしまった（笑）」

「あはは、なんだそれ？（笑）」

今日は本当に最悪の一日だったけど、吉田さんと二人っきりになれたし、最悪でもなかったかな？

うーん……「中悪」くらいだな（笑）

田島誓のターン3（後書き）

感想・アドバイスを頂けたら参考にします^^

吉田めいのターン3（前書き）

めいちゃん本性全開です。

セリフ文章が多いです。

良かったらブログも覗いてみてください^^
<http://blog.gs.yahoo.co.jp/chianj161020/>

吉田めいのターン3

「バナナクレープを2つ」

「チョコソースとクリーム多めで!!」

「ちよつとめい!太るわよ!!」

「いいじゃない、掃除で疲れたの!」

しまった・・・さすがにポリウムが・・・

「で?」

「えっ?」

クレープのあまりのポリウムに気を取られて、間抜けな返事しちゃったじゃない!!

「えっ?じゃなくて!有島くんは見つかったの?」

「ああ!見つけたんだけどさ、告白現場でね。しかも田島君と当番交換してたの。もう早く言ってよ!!ってかんじ。」

「有島くんモデルからねえ・・・」

「まあ顔はいいと思うけど・・・でもあの人無愛想じゃない?」

「そこがいいんでしょうよ。でも私は田島君のほうが好き・・・かな」

「えー！？なんで？まあ確かに顔は可愛いけど・・・」

「それだけじゃないよ！田島君は・・・優しいよ・・・ってあんた、顔のこと気にするわね・・・」

「だって結局、皆が最後に選ぶのは顔じゃない・・・」

「いや、違うだろ！！」

「ちえに言われも説得力がなーーーーーい！」
この美人さんめ！！

「おい！って別にいいじゃない、あんただってモテないわけじゃないでしょ？」

「そんなの、私が『いい子』で言う事なんでも聞きそうだからですよ？」

「あのーお話すみません、お客様こちら新商品なんです。宜しければ試食をどうぞ。」

「あつ！ありがとうございます」
わあい、ラッキー
ん？

「なによ？ちえの分もあるでしょ？」

私のはあげないわよ！

「あんたさあ、態度変わりすぎ！ていうかあんた、そんなんで彼氏できたらどうするの？」

「作らないからいーもん！」

「もん！ってあんた……」

「だって男子ってバカばかりじゃない！みんな私のこと、優等生のいい子ちゃんだって思ってる。」

「そりゃあんたが本性見せないんだから当たり前でしょう？」

「だって、本性見せたら絶対皆離れていくもの……」

「だから！なんでそんな風に思うの？」

「だって私の本性なんて、口悪いし、たいして面白くないし、外見だって中の中だし……」

あーもうコンプレックスだらけだ……

「そういう所がいい！って言ってくれる人だっていると思うけど？」

「まさか！その前にこの本性を見破る人なんていないね！！」

「そうかなあ？」

「そつだよ！！もうこの話は終わり！ほらあはやく食べよう！」

そっだよ・・・そんな人が居たら、私の方が好きになっちゃうね
！！

まあそんなことはありえないけどね！

吉田めいのターン3（後書き）

評価していただけると嬉しいです^^

有島秋のターン3（前書き）

まだまだ進展なし。

良かったらブログも覗いてみてください^^
<http://blog.gs.yahoo.co.jp/chianj161020/>

有島秋のターン3

結局することもなく、家に向かっている。

こんなことなら掃除当番すればよかったかな・・・

まあ後でケイがうちに来るだろ。

おばさん今日居ないって言ってたし。

あーそれまで暇だ・・・

あつ！

噂をすればケイのおばさんだ。

それにカズ姉・・・とあれは・・・

「有島?!」

ん？誰だ？

「有島だよな？」

誰だっけ？顔を見ても思いだせん・・・

「お前まさかオレのこと忘れたんじゃ・・・」

そのまさか・・・

「いや、覚えてるよ・・・えーと・・・あのー・・・」
思い出せ！思い出すんだ俺！！

「やっぱり忘れてるじゃねーか！！オレだよ。佐伯良！中三の時同
じクラスだっただろ！！」

あーーーーーそうそう！いたいた！！

「うん、知ってたよ・・・」

「嘘つけ!!」

「佐伯くんの知り合い?」

この女、自分に自信有! って感じだな・・・上目遣いやめろ!

「有島秋っていつてオレの中学のクラスメイト。」

「えっ?あの有島くん??」

どの有島くんだよ!!

「えー佐伯にこんなカツコイイ知り合いがいたの?なんで今まで黙ってたのよ!」

こっちの女はえらくケバいな・・・

「あー知ってる、知ってる!有島秋、おれの中学でもちよつとした有名人だったぜ。」

この男は典型的なガリ勉ってかんじだな。

「佐伯!私達のこと也有島くんに紹介してよ!!」

えー別にいいよ・・・覚える気ないし・・・

「あーそうだな。有島、この背の小さい子が岸田麻衣ちゃん」
きしまい

「よろしく」

なぜ顔を赤らめる・・・

「このうるさい女が野田麗子」
のだれいこ

「うるさいは余計でしょ！」

確かにうるさい・・・あーあ佐伯殴られて・・・

「この暴力女！あー嘘です、ごめんなさい！」

佐伯、なんて弱いんだ・・・

「で、こっちの男が堂島進どうじましん」

堂島？どこかで聞いたことが・・・

「あー！堂島！！模試で必ず上位にいた奴だ！あんただったのか。」

「それって一度もお前に勝ったことのないおれへの嫌味？」

あれ？そうだったっけ？

「えー有島くんってそんなに頭いいの？」

いちいちうるさい女だな・・・声のボリュームを調節しろ！野田麗子！！

くそ、覚えちゃったじゃないか！！！！

「そうだよ、こいつすつげえ頭良かったんだよ。しかも顔もいいだろ？だから有名人だったんだよ。」

周りが勝手に騒いでいただけだろう・・・

「じゃあなんでうちの高校に来なかったの？」

あーこいつら全員、白鳥学院しらとりがくいんか。

「そうだよ！有島くんのその制服、北浦きたうらのやつでしょ？」

「そうなんだよなあ、有島は白鳥に行くと思ってたのに、北浦だろ

？北浦も悪くはないけど偏差値は白鳥と比べ物にならないし、学校の先生達もがっかり。で、なんで北浦なの？」

「欲しいモノがあるから。」

「欲しいモノ？」

おいおい、全員でシンクロするなよ。

「そう。俺、欲しいモノは自力で手に入れる主義なんだ。」

「その欲しいモノってなに？」

「それは言えない。でもそれは北浦にしかないし、勉強なんてどこでも出来るだろう？」

事実、今回の模試も俺は上位に入っている。

「なんか・・・かつこいい・・・」

「つと悪い、俺そろそろ帰る。じゃあな」

女の子二人が俺に熱視線向けていることや、それに対して男二人が嫉妬視線向けていることにも気づいていたけど、そんなことは無視。

「なんで北浦？」

何度も何度も聞かれたことだ。

それでも後悔なんてしたことない。

絶対に手に入れてみせる・・・

さて、そろそろケイが帰ってくる頃かな？
これで今日は退屈せず^ずにすむな。

有島秋のターン3（後書き）

感想・アドバイス・リクエスト頂けたら参考にします^^

有島秋のターン4（前書き）

前回に引き続き、今回も有島くんのターン。

そろそろ進展させていかねば；

良かったらブログも覗いてみてください^^
<http://bloggs.yahoo.co.jp/chianji61020/>

有島秋のターン4

そろそろケイが来るな・・・

3・2・1

「アキ！入るぞー！！」

ほら来た（笑）

「お前ね、返事する前に入ってきたらノックの意味ないだろう？」

「いいじゃんか、お前と僕の仲だろう！それにしても疲れたあ」

「おおげさだな、掃除当番は5人も居るんだから、そんなに疲れな
いだろう？」

「今日は二人だったんだよ！！」

「あらら・・・それはそれは失礼いたしました。で？誰とやったん
だよ」

「ん？吉田さん。まあだから、そこは別に悪くはなかった・・・け
ど・・・」

「なんで？お前吉田のこと気に入ってんの？」

「いや・・・普通に可愛いなあとは思っけど・・・」

「どこが？顔普通じゃん」

「っ！かあいつの笑顔はウソくせえ！」

「どこがって・・・一生懸命なところか、気遣いできるところか、顔じゃないよ。ってお前なんで機嫌悪いわけ？」

「別に悪くないです！」

「ああ、そうですか!!」

「あつ！そういえば、おばさんと一緒にカズ姉も出かけてたぞ？あと一人は見たこと無い男だったけど。」

「ああ、新しい彼氏だろ？」

「また男変わったのかよ！？相変わらずモテるな、カズ姉。で？今度はどんな人？」

「さあ？知らねえ・・・どうせまたすぐに終わるだろ」

「ふーん」

「それよりさ！今晚の夕飯なに？アキのおばさん料理上手いから、かなり楽しみ」

「ケイ、夕飯の前に課題しろ！お前明日また当たるだろ？」

「えー！」

「そして早く寝ろ!!」

「なんでだよ！お前は僕の母親か!!」

「だってお前、明日は焼きそばパン買わなきゃだろ？早めに寝て、体力温存しとけよ！」

「そうだったー焼きそばパン！やっぱり今日の僕はついてない・・・」

あはははは、やっぱりケイは飽きないな（笑）

それにしても、掃除当番・・・どうせ暇だったし、俺も行くべきだったな・・・

吉田か・・・あいつ苦手なんだよなあ・・・

まあとりあえず、ケイの士気を上げるために今日の夕飯を聞いてみよう。

有島秋のターン4（後書き）

感想・アドバイス・リクエスト頂けたら、参考にします^^

田島誓のターン4（前書き）

今回は田島君視点です。

次はもう一度田島君が有島くんかなあ。

良かったらブログも覗いてみてください
^^
<http://bloggs.yahoo.co.jp/chianji61020>

田島誓のターン4

戦いはもう始まっている・・・
チャイムが鳴るまであと5分。

まずはチャイムと同時に立ち上がり、廊下に飛び出す。
そのまま一気に階段を駆け下り、獲物をゲットする。

そう今日の僕はハンター。

「焼きそばパンのな」

・・・

「アキ！！集中してんだから話しかけるなよ！」

「お前大げさすぎだから（笑）」

「お前ね、焼きそばパンがどれだけ競争率高いか分ってんの？？」

「そんな、たかが焼きそばパンだろ？」

「その【たかが】のために僕は走るんですけど・・・じゃあ買わなくてもいい？」

「ダメ！！」

ちっ。

「ほら、もうすぐチャイム鳴るぞ？」

「あーもう！お前が話しかけるからだろ！！」

あと1分・・・あと45秒・・・あと30・・・15・・・

$$\begin{array}{c} 3 \\ \cdot \\ 2 \\ \cdot \\ 1 \end{array}$$

【キンコーンカーンコーン】
今だ!!!!!!

僕は勢いよく立ち上がり、一目散に売店を目指した。

「いらー！たじまー――」

ごめん先生、今日だけは見逃して！

見よ！この華麗なるスタートダッシュ！！
これなら焼きそばパンは余裕でゲツ……って

I
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
@
@
?
?

な、なんでもうこんなに人が居るんだよ！！
お前らちゃんと授業最後まで受けてきたのか？？

いーけないんだ、いけないんだ！せーんせいと言ってやるうう（泣）

「うわーもうこんなに人居るの？」

「……うんぬん」

宇野ちえ、吉田さんの親友。

「宇野さんもパン買うの？めずらしいね。」

「あつ、田島君。うん、今日お弁当わすれちゃって……。でも、この状況……。今日はお昼抜きかも。田島君、教室出るのすごい早かったね（笑）」

「うん、ちょっとね。僕の分はちゃんとお弁当あるんだけどね。・誰かさんのせいでこんなことに……。・」

「えっ？」

「あーいや、宇野さん何が食べたいの？」

「うーん、焼きそばパンを食べてみたかったんだけど……。無理そうだね。」

「……。OK、わかった！ちょっとここで待ってて！！」

「えっ？ちよつと、田島君？」

「ここまで来て諦めるなんて男がすたるぜ！

狙うは焼きそばパン！！パンハンターをなめるなよ。

パンハンターって……。だせえ……。
と自分に突っ込んでる場合じゃない！

「おばちゃん！！焼きそばパン3つと……。ってえ！！！」

誰だよ、髪の毛引つ張ってる奴!!

おい、こらお前!俺の足踏んでるぞ!!
くっそー負けてたまるか!!

「おばちゃー——————ん」

「だ、大丈夫?田島君……」

「大丈夫……だと思っ……」

ひ、ひどかった……もうボロボロ。

「はい宇野さん。」

「ごめんね、ありがとう。って焼きそばパン買ったの?」

「うん、頑張った(笑)」

「えっ?でも田島君のは?」

「大丈夫!ちゃんとゲットしたから。」

「本当に?」

「本当!ほら、昼休み終わっちゃうよ?早く教室戻ろう。吉田さんも待ってるんじゃない?」

「いや、めいは今日日直だから、もう次の授業の準備に行ってると思う。」

「準備？一人で？もう一人は？」

「さあ、誰だったかな？」

誰だ！女の子一人で準備させて！！

まして吉田さんなんてうらやましい状況を！！！！

・・・・・・・・

「田島君？」

「えっ？ああ、戻ろうか、宇野さん。」

はぁ・・・アキのやつ待ちくたびれてるだろうなあ・・・
でもこのパン袋の中身を見たら・・・・・・・・

ま、まあとりあえず教室に戻るか。

田島誓のターン4（後書き）

一度宇野さん視点を挟むか悩み中・・・
感想・アドバイス・リクエスト頂けたら参考にします^^

有島秋のターン5（前書き）

今回は有島秋君視点です。

次はそろそろ吉田さんですかね。

良かったらブログも覗いてみてください^^
<http://blog.ss.yahoo.co.jp/chianj161020/>

有島秋のターン5

遅い！！

もう昼休みも1/3は終わっちゃったじゃないか！

あーくそ、腹減ったあー！！

「そんな恐い顔してんなよ・・・鏡見てみるよ、腹減らしたライオンみたいな顔になってるぞ。」

「ケイ！お前なにしてたんだよ？！俺を餓死させる気か？えっ？」

「悪かったよ、だってすげえ売店込んでたんだもん。」

「ってよく見たらこいつ制服ヨレヨレ・・・」

「で？パンは？」

「ほら。」

「おお、サンキュ。もう頭の中焼きそばパンで一杯・・・ってケイ君？」

「何かしら？アキ君？」

「こら、こっちを向け！

「僕、目が悪くなったのかなあ？焼きそばパンがメロンパンに見えるんだけど。」

「うわーアキ君、それは眼科に行ったほうがいいよ。」

「そっだよね、じゃあ頂きます・・・ってコレは見た目も味もメロパンだろ!!」

「あつ！バレました？」

おい！

「俺は焼きそばパンを買って来いって言ったんだけど？」

「お前はジャイアンか！仕方ないだろ？買えなかったんだから!!」

「逆切れかよ！のび太のくせに生意気だぞ!!って、お前あんなに教室飛び出しといて・・・だせえ・・・」

「うるせえ！文句言うな!!」

「可哀想な俺の胃袋・・・焼きそばパン期待してたのに・・・」

「だあ・かあ・らあ・・・」

「あのお田島君・・・
ん？宇野ちえ？」

「ああ、どうしたの宇野さん。」

「焼きそばパンすごく美味しかった。ありがとうね。有島君はもう食べた？」

「えっ？」

「あー食った！食ったよなアキ？こいつ感動しちゃってさあ」

えっ???

「あはは、確かにあの味は感動するね。本当にありがとうね、田島君。」

.....

「いいよ、気にしないで。な？アキ。」

.....

「ありがとう、じゃあね。」
えっと.....

「はい。」

これは.....

「ケイ君？いつの間に、僕の胃袋に焼きそばパンが入ったのかな？」

「寝ぼけていたんじゃない？アキ君。」

「.....」

「おーまーえーなー・・・せっかく買った焼きそばパン、宇野にやっただろ？」

こいつはいつもそうだ！

「だって仕方ないだろ？食べたと言ってうんだから！！こういう時は女の子優先だろ！」

このフェミニストが！！

「あっ！そうそう、有島君。」

「えっ？何？」

なぜ戻ってきた宇野！まずい、今の聞かれたか？

「あつ、ごめん、な、なんか話中だった？」

「いや、別に・・・で、何？」

「今日、有島君日直じゃない？次の授業の準備行かなくていいの？
は？日直？」

「あーーーーー忘れてた！！」

つて、俺まだ昼飯食べてないんだけど・・・

「早く行けよアキ、そして馬車馬のように働いてこいよ（笑）」
こいつ・・・

「わざわざありがとう宇野。でもそれはケイが行きたいっていうから変わったんだ。な？ケイ。」

「はあ？？なんで僕が！」

「焼きそばパン・・・」

「・・・あーそういえば忘れてたなあ・・・僕アキの変わりに準備したかったんだあ・・・行ってきたーす・・・」

「な、なんか・・・大丈夫かな？田島君・・・」

「あーいいのいいの。そういえば、もう一人の日直って誰だったけ？」

「ん？めいだよ。」

あー吉田ね……………

ん？吉田？

まずい！

「おい、ケイ……………ってあいつはどこに行ったー？？」

「どこって……………理科室でしょ？」

冷静なツツコミをありがとう。

くっそー焼きそばパンは食べれなし、全力疾走してるし……………
今日は俺が厄日か？？

はあ……………

有島秋のターン5（後書き）

うーん宇野さん出てくるなあ（笑）

実はまだ誰と誰をくつつけるとか未定だったりします^^；
どうしよう・・・

感想・アドバイス・リクエスト頂けたら参考にします^^

吉田めいのターン4（前書き）

久しぶりの吉田さん視点です。

最近ミクシ始めました。

いやぁ暇つぶしにはいいですねw

さてさて、徐々に話を動かしていく予定です。

吉田めいのターン4

「じゃあ吉田、これも頼むな」

「はい。」

はあ・・・普通女の子にこんな重たい教材持たせる？
まだ理科室の準備終わってないんだけどなあ・・・

ていうか！もう一人の日直はどこに行ったのよ！
まあいいや、とりあえずコレ置いてこようかな・・・

「吉田さん！！」

「えっ？」

だれ？

・・・田島くん？

「どうしたの田島君・・・って大丈夫？」

「い、ごめん・・・はあ・・・食べて・・・すぐ・・・走ったから・・・」

「ゆっくりでいいよ、何か用？」

「日直・・・」

「えっ？」

「日直の仕事、手伝つよ」

「あれ？田島君、今日日直だったっけ？」

「いや、違うけど、頼まれたから」

「あーじゃあ悪いよ。大丈夫！一人で出来るから。」

「いやいやいや、女の子にこんな重いもの持たせられないから。ほら、それ頂戴。」

「うわー噂通りフェミニスト・・・」

「あーじゃあ・・・悪いんだけど、理科室の準備しててもらっていい？」

「理科室？」

「うん、まだ準備終わってないの。コレ置いたらすぐ来るから、それまでやっててもらってもいい？」

「ていうか、僕が教材持つて行くよ？」

「いいの！だって田島くん日直じゃないでしょ？準備手伝ってもらうだけでも悪いのに、そんなに甘えられないよ！ね？」

「わかった。じゃあ理科室準備しておくね。」

「うん、ごめんね。すぐ行くから。」

あーあ、走らなくてもいいのに・・・

それにしても田島慧・・・誰にでも優しいのね。
しかも天然で・・・なんか・・・

「おい！」

「うわっ！！」

誰よ？！いきなり声かけるなんて！思わず変な声だしちゃったじゃない！！
有島秋？

「ケイは？」

「えっ・・・あー田島くんなら理科室だけど・・・」

「理科室？」

「うん、日直の仕事手伝ってくれるって言っから・・・」
私こいつ苦手なんだよね・・・

「ふーん」

ほら、大抵私が「いい子ちゃん」やれば皆私に好意的なのに、こいつだけは違っんだよね・・・
仕方ない、ここはもう2、3匹猫かぶるか・・・

「でも、田島くんって優しいよね、日直じゃないのに手伝ってくれるし。皆に好かれてるのわかるな。」
これでどうよ！今最高の笑顔だね私。

「・・・・・・・・」

な、何よ・・・なんで睨まれなきゃならないの？

「お前さあ・・・」

何よ・・・

「その作り笑顔やめれば？ム力つく。」

「は？」

「まあいいや、ケイは理科室なんだな。　　たくあいつは、足だけは速いんだから・・・」

「ちょ、ちよつと・・・待つ・・・」

行っちゃった・・・

なに？何？何？何？何？何？

何今の？？？

あいつ今なんて言ったの？

ム力つく？

何が？

作り笑いが？

なんなの？あいつ？

なんなの？？

やっぱり苦手だ！有島秋！！！！

吉田めいのターン4（後書き）

感想・アドバイス・リクエスト頂けたら、参考にします。

「視点」を見たい！とリクエストしてくだされば、書きますw

田島誓のターン5（前書き）

かなり久々の更新。

卒論終わって、やっとこれから更新できるww

田島誓のターン5

理科室、理科室

それにしてもアキのやつ、吉田さん一人に準備させて、男の風上にも置けない奴だな！

悪い奴じゃないんだけどなあ・・・

そういえば、あいつって好きな人とかいるのかな？

アキとは付き合い長いけど、そういう恋愛の話ってしたことないなあ・・・

まあ、あいつが人を好きになるなんて想像つかないけどね（笑）

あいつが好きになる人だから、きっと完璧ないい女とか！

いやいや、逆に天然ドジッ子とか！

意外な線で・・・ロリコン！！

・・・

・・・

・・・

やめよう・・・殺される・・・

それにしても、誰もいない理科室って気持ち悪ッ！

あーあ、机に落書きが沢山・・・

おっ！これは僕が高校1年のときに書いた傑作「たこやきくん」

特技：つまようじで刺す

・・・

くだらねえ（笑）

これもありがち相合傘！

あっ・・・

「ケイ！」

「うわっ！！！」

ビックリした・・・なんだ？

「お前・・・歩くの・・・はやすぎ！」

「アキ？何？どうしたの？」

「えっ？いや・・・やっぱり日直押し付けるのは可哀想になって・・・」

「そういうことは僕じゃなくて、吉田さんに言えよ！」

「また吉田かよ・・・」

「えっ？」

「いや・・・ってお前何してんの？」

「ああ・・・ちょっと皆の落書きをみてた」

「ふーん・・・」

ああびっくりしたあ・・・

理科室だからまじでビビったあ

あっ！おばけが怖いとかじゃないからな！

違うからな！！

田島誓のターン5（後書き）

アドバイス・リクエスト頂けたら参考にします^^

有島秋のターン6（前書き）

少しずつ恋愛を動かしたい！

のに動かない（笑）

有島秋のターン6

「で？なにやってんだ？」

「いや、ちょっと皆の落書き見てただけだよ」

「ふーん・・・さすがに相合傘の落書き多いな」

「まあ一時期噂あったもんな、理科室に相合傘書くと結ばれるって」

「おっ！B組の田代と金子。これ書いたの絶対田代だな（笑）」

「アキのも沢山あったよ（笑）」

「はっ？誰だよ勝手に！どこ？」

「ほら、C組の向井さんとか、あっ！鈴木さんも」

「ケイ、消しゴム！」

「はあ？いいじゃん！そのままにしといてやれよ！可愛い落書きだろ？」

「やだよ！好きでもない奴と相合傘なんて、たとえ落書きでもやだね！」

「じゃあお前の好きな人ってだれ？」

「はっ？」

「いやあ、お前って好きな人いるの？」

「なんだよ急に・・・」

「いや、僕達って付き合い長いけど、そんな話しないじゃん？」

「じゃあお前は？」

「えっ？」

「お前はどうかんだよ？人に聞くにはまず自分のを言えよ」

「いや、僕は・・・」

「吉田なの？」

「えっ？なんで？」

「だってお前、やたらと吉田の話するじゃん」

「いや、可愛いとは思ってるけど・・・」

・・・

「おいお前ら、準備できたのかあ？」

「わあ！！柴田先生？！」

「なんだよ？人をおばけみたいに！お前らどっちか、準備室から資料とってこい」

「あつ！僕がいきます」

「おう、じゃあ頼んだぞ」

「あーじゃあ、僕準備室行って来るから、アキは準備の続きやってて」

「ああ、わかった」

それにしても、本当に相合傘の落書き多いな・・・

ずいぶん昔に書かれたやつもあるし・・・

おっ！これってカズ姉じゃん

さすがカズ姉！モテるねえ

でもこれ・・・

なんで相手の名前、全部消えてるんだ？

あっ・・・こっちも、これも・・・

なんだこれ・・・カズ姉の相手の名前、意図的に全部消してある・・・

筆跡全部違うから、相手の名前はみんな違うんだろうけど・・・

まあカズ姉モテるからな、誰か消したんだろ。

そうそう、俺のも消そう！

つたく、勝手に書きやがって・・・

・・・

・・・

・・・

「有島？」

「わぁ！！！」

びつくりした！！ん？大塚？

「なんて声だしてるんだよ（笑）授業始まるぞ」

「ああ・・・もうそんな時間か」

「それにしても腹へんない？」

「お前、さっき昼飯食べたろう？だから太るんだよ！」

「なんだよお、っってお前なにか書いてたの？」

「いや・・・ほ、ほら、いいから座るぞ」

「えー何書いてたんだよ」

「大塚、チヨコやるからとりあえず座ろっぜ」

「まじ？チヨコってどこのやつ？」

あーびびった・・・

つかこいつが食欲魔人で助かったあ

あれがバレたら、恥ずかしさで死ねるね！

いやあ・・・俺も意外に乙女思考だな・・・

有島秋のターン6（後書き）

アドバース・リクエスト頂けたら参考にします^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1525f/>

トライアングル ～僕と私と俺の恋愛事情～

2010年11月10日14時42分発行